

Faculty Development FD



日本大学
FD NEWSLETTER

SUMMER
2019
VOL

15



Contents

FD活動を前進させる年間プログラム
“日本大学 FDラリー”が始まりました **2**

連載 部科校における学習支援等の事例紹介 **4**

第10回 【スポーツ科学部】 積極的な担任制度とセンターオフィスアワーの活用

連載 授業改善のためのティーチングティップスの収集と情報提供

第11回 芸術学部でのアクティブラーニングの実践におけるグループワークの評価

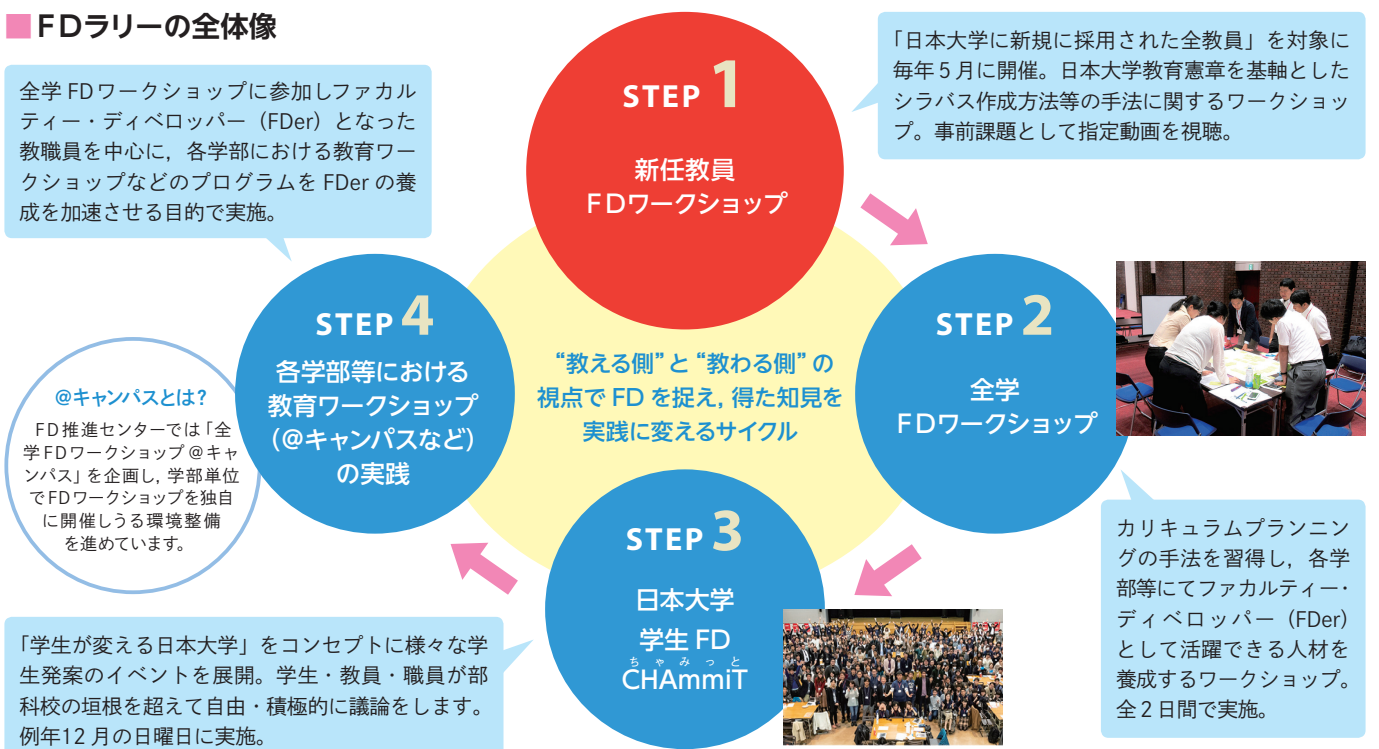
COVER PHOTO

「航空宇宙工学実験Ⅱ」でのグライダー曳航実験の様子。この実験では、グライダー部協力の下、実機を用いた飛行中の荷重・速度・姿勢等計測により、航空機の特性やその設計法を学びます。(担当教員：理工学部宮崎康行教授、大竹智久准教授、齊藤允助教)

FD活動を前進させる年間プログラム “日本大学FDラリー”が始まりました

これまで、FD推進センターは、新任教員FDワークショップ、全学FDワークショップ、日本大学学生FD CHAmmit を主催・実施してきましたが、それぞれが独立したFDイベントとして回数を重ねています。FD推進センターでは、「日本大学の教職員には、“日本大学のFD”を理解し、体系性をもった各イベントに参加して教育に関する理解を深め、各学部へ持ち帰り、教育の質向上を実現していただきたい」との思いから、全教職員に“日本大学FDラリー”への参加を奨励します。

■FDラリーの全体像



※ STEP2 からは新任教員に限らず参加可能

“日本大学FDラリー”でアウトカム基盤型教育を支える人材を育成

日本大学FD推進センター副センター長・
全学FD委員会プログラムWGリーダー
教学戦略委員会教育開発推進検討WG
河相安彦 (松戸歯学部 教授)



新任教員のみならず“日本大学FDラリー”に参加していただくことにより、日本大学教育憲章で育成を目指す人間像、本学が重視するアウトカム基盤型教育や学生視点を考慮した教育など、すぐに実践できる教育手法の理解や将来にわたる様々な経験が得られるでしょう。また、この一連のプログラムを10年、20年と積み重ね、参加者が増加することにより、教職員共通の認識の下で、教育施策の展開が期待できるようになります。“日本大学FDラリー”を学内全体において意義あるプログラムにしていきたいと思っております。

今後の予定

STEP 2 全学FDワークショップ

開催日: 第1回 令和元年9月5日(木)・6日(金)
第2回 令和元年9月9日(月)・10日(火)

場所: 日本学会館

テーマ: 「大学教育における課題の解決に向けてー教育能力の開発 (Faculty development) を企画・運営できる人材の育成ー」

STEP 3 日本大学 学生FD CHAmmit 2019

開催日時: 令和元年12月8日(日) 10時30分～18時00分
場所: 理工学部 (駿河台校舎) 及び歯学部

※ FD推進センターホームページより参加者を募集しますので、ぜひご参加ください。

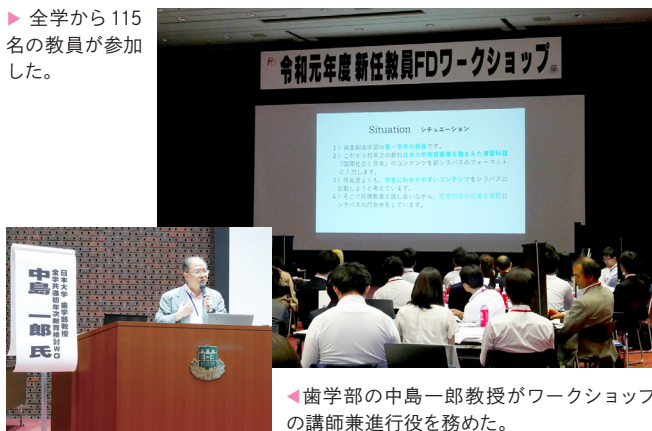
STEP 1

日本大学教育憲章を基軸としたシラバス作成を体験 新任教員FDワークショップ2019開催

令和元年5月18日（土）、日本大学会館2階大講堂において、新任教員FDワークショップが開催されました。平成31年4月以降に日本大学に採用された新任教員115名が参加し、日本大学教育憲章を基軸としたシラバス作成について学びました。

所属学部の異なる新任教員が グループごとにシラバス作成に挑む

▶ 全学から115名の教員が参加した。



◀ 歯学部の中島一郎教授がワークショップの講師兼進行役を務めた。

今回の研修の目的は、自分が担当する授業科目が、本学が育成を目指す人間像に必要とされる能力のうち、どの能力を育成するのかということ意識したシラバス作成の手法について、新任教員に理解を深めてもらうことです。講師を務めたのは、歯学部の中島一郎教授です。まず、日本大学教育憲章やシラバスに関する知識を確認するため、ワーク前に参加者にモバイル端末を用いたプレテストを実施。結果はスクリーンに映し出され、現状の理解度の把握から始まりました。

その後、参加者は6～8名の17グループに分かれ、架空の学部である自主創造学部の第1学年の教員という設定の下、「国際社会と日本」という演習科目のシラバス作成に取り組みました。現状のシラバスの問題点を抽出するグループや学修目標の設定から取り組むグループなど、話し合いの手順は様々でしたが、どのグループでも活発な議論が行われて



▶ ワーク前後にテストを行い、今回の成果を可視化。

▶ 参加者は自身の経験を踏まえ、活発な意見交換を行った。

■ 当日のスケジュール

司会◎ 短期大学部（船橋校舎）佐藤秀人教授

13:30～13:40	開会挨拶 日本大学学務部長 松林 肇
13:40～16:30	日本大学教育憲章を基軸としたシラバス作成のワークショップ 講師：学務委員会全学共通初年次教育検討WG 教学戦略委員会教育支援プログラム検討WG 日本大学歯学部教授 中島一郎
16:30～16:50	日本大学の教育と教育改善活動（総括） 日本大学FD推進センター副センター長 全学FD委員会プログラムリーダー 教学戦略委員会教育開発推進検討WG 日本大学松戸歯学部教授 河相安彦
17:00	閉会



▶ 付箋を使って改善ポイントを整理しているグループも。

▶ 教員歴・専門分野の異なる参加者が、グループごとにワークを行った。

▶ 発表者だけがその場所にとどまり、他のメンバーは他グループの発表を聞いた。

いました。演習科目の設定であるため、ディスカッションやプレゼンテーションを取り入れるなど、講義形態について検討を行うグループも目立ちました。どのグループも頭を悩ませていたのは、「一般目標（GIO）と行動目標（SBOs）」の違いです。参加者がその疑問について、中島教授を呼び止め、意見を求める姿も見られました。

1時間半のグループワーク後、各グループの発表が行われました。発表後には質疑応答の時間が設けられ、参加者はシラバス作成の課題について共有していました。グループワークの締めくくりとして、ワーク前に実施したテストに再度チャレンジ。その結果からは、本学におけるシラバス作成への理解が深まったことが確認できました。

連載

部科校における学習支援等の事例紹介

第10回 [スポーツ科学部] 積極的な担任制度とセンターオフィスアワーの活用

スポーツ科学部には、さらなる競技力向上を目指すために学ぶトップアスリートや、競技者を支援する側で専門領域を学ぶ者など、多様な学生が在籍し、それぞれが「スポーツ科学」をキーワードに学びを深めています。本学部では、そんな夢を追う途上で様々な事情を抱える学生に対して、学士にふさわしい力を培うための学習支援を行っています。

1つ目は、積極的な担任制度です。1年次は、全学共通初年次教育科目「自主創造の基礎」を受け持つ教員がクラス担任となり、授業内にとどまらず学生からの質問や相談を受け付けます。2019年度からは副担任も配置し、複数の教員に相談で

きる環境を整えました。

2つ目は、キャンパスをあげて実施しているセンターオフィスアワーです。従来のオフィスアワーと異なり、研究室ではなくラーニングセンターで、決められた曜日・時間に相談を受けます。1年生も気軽に教員を頼ることができる環境づくりが狙いです。学びを広げたい学生には、そこで発展的な専門レクチャーをすることもあります。

3つ目は、特別補講です。遠征等でやむを得ず公欠をした学生に対して、期末に特定の期間を設け、授業の復習を兼ねた補講を実施。レポート等を課すだけではなく、授業での学びを整理して単位を修得できるよ

う学習支援を行っています。

これら一連の支援から顕在化した学生の状況や課題は、学部会議において全教員で情報共有し、中途退学者が出ないように教員が一丸となって支援しています。これらの取組は、教員側にとっても、目標となる力をどのように身に付けさせるとよいか、自らの授業を振り返る良いきっかけになっています。

(スポーツ科学部教授 西川大輔)



センターオフィスアワーを活用する学生の様子。

連載

授業改善のための
ティーチングティップスの収集と情報提供

第11回 芸術学部でのアクティブラーニングの実践におけるグループワークの評価

芸術学部では、1年生約950人が土曜日の1限目に全学共通初年次教育科目「自主創造の基礎」を受講しています。この授業は毎週グループワーク中心に進められ、学生は話し合いの過程を、専用のノートブックに記入していきます。

ノートの内容は、学生が授業の積み重ねを記載し振り返る役割を担うだけでなく、教員にとって評価基準の1つにもなります。例えば、「自主創造の基礎」のメタ・ルーブリックには、「自ら学ぶ」「自ら考える」

「自ら道をひらく」が設定されていますが、各グループワークでは、これをより具体的に設定します。一例として、「あなたにとって故郷とはどのようなものか?」というグループワークでは、評価基準を「創造性」に絞りました。1回のグループワークで複数の能力を測るのは難しいためです。異なる能力を測るグループワークを組み合わせ、メタ・ルーブリックを補う工夫をしています。

グループワークは週を追って「ブレスト」「作品による表現」「作品の

シェア」「概念の統合」と段階的に進みますが、学生はこの過程ごとに、ワークにおけるポイントを示してノートに記入しておきます。教員は「故郷の表現の創造性」をルーブリック表に照らし合わせ、S・A・B・Cのように評価します。各グループワークの内容に即して、「個々の役割を意識して課題に取り組んで問題を解決できたか」等のポイントを示して振り返りをさせながら、学生の成長を評価する一助としています。(芸術学部准教授 吉野大輔)

※本ニュースレターに記載した役職・資格・学年等は、令和元(2019)年5月現在のものです。

日本大学 FD NEWSLETTER 第15号

発行日: 令和元(2019)年7月1日(年2回発行) ©次号は令和2(2020)年1月1日発行予定

発行者: 日本大学FD推進センター センター長 落合 実

〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24 電話:03-5275-8314 FAX:03-5275-8315

e-mail:adm.aca.eps@nihon-u.ac.jp http://www.nihon-u.ac.jp/fd-center/

所管部署: 日本大学 本部 学務部学務課 企画・編集: 日本大学全学FD委員会教育情報マネジメントワーキンググループ

[日本大学 FD NEWSLETTER]に関する御意見や御感想などがありましたら、学務部学務課(adm.aca.eps@nihon-u.ac.jp)へお寄せください。

本ニュースレターに掲載した文章、写真等の無断転載・複製を禁じます。 Copyright(C)Nihon University 2019 All Rights Reserved.

